

随筆

名古屋からケラマ見て思うこと

末吉設計室

末吉正一

沖縄の自然環境と内地とは違うことは承知していましたが、内地に約12年過ごして来て改めてこの邦“わたしたちの”の素晴らしさに気づかされる。

名古屋市に12年間過ごして来て、島育ちの私にとって内地の海で泳ぐ為、夏場の知多半島のビーチに行った処、海浜の状況を見て愕然とし泳ぐ処かビーチの砂浜にも降りず帰って来たことを思い出します。その後内地に居た間に海へは二度と行く事はありませんでした。又、機会があってセスナ機で名古屋市上空を中心にアクロバット飛行するなどの遊覧飛行を機長と二人で行いましたが、想像以上に大気は汚れていました。石油コンビナートやマンモス工業団地群が数多くある名古屋工業ベルト地帯である、当に大気汚染の産物である。

確かに高度成長期と比べたら大変に減少していることは分る事だが、然し未だに大気は汚されている。温暖化が進んでいる要因の大きな一因でもあると思えるのである。

私は縁があって渡嘉敷村出身の人を“一番のしいぐわー”に迎えました。現在その両親が阿波連部落でサービス業を営んで居て、機会が有る時は遊び行ったりしています。ケラマは内地の観光客が多く又、リピーターも多いのが特徴です。内地の人に取っては那覇からフェリーで75分、高速船では35分で行く為に空港から直行で来る人が多い様です。

私はその内地の観光客夫婦と話しをする機会があって、お話を聞くと「私たちは10年前以来でここに来ましたが、あの頃からすると海も砂浜、部落も随分汚れてきていますね。」と言われて、ショツクを受けた次第であります。私達や毎年くるリピーター達にはそれ程気づきませんでした。数年ぶりに来る観光客に取っては、初めて見るケラマの海・ビーチ・島山の印象が強く目に刻まれるのだと思いました。私も島育ちではありますが、高校生のリーダー研修で初めて渡嘉敷島に来たときの事を思うとその様に感じ受けます。

私達人類は他の生き物と違って考える頭脳を持っています。人間は常に生活が楽に成るよう文明を発達、発展してきました。そして今やロボットの時代に入ってきています。人類の欲望は限り有りません。それに引き替え、我々が住んでいる地球は全てに於いて限り有りません。

大気を汚し、母成る海を汚し、父成る大地を汚し温暖化は進む一方です。

観光客の一言で思いを新たに感じました。この地球、この日本、この沖縄、そしてこの白い美しい砂浜、海、山々は人間がしか汚しません、又破壊しません。そして又人間がしか改善する事が出来ないの有りです。

一人一人が自覚し、一人一人が先ず不要なゴミを出さない、又所定場所にする、あるいは持ち帰るなどの基本マナーを守る事から観光立県が成り立つのではないのでしょうか。今は一時的な沖縄ブームの様にも受けませんが、恒久的な観光地とする為にも我々県民の一人一人の自覚が改めて確認する必要がある様に思われます。



一般社団法人 沖縄県設備設計事務所協会